

新愛知県がんセンター基本構想

2024年4月 愛知県

1 基本方針

- 新愛知県がんセンターを病院と研究所が一体となって、次代のがん医療・予防の研究開発や、最先端のがん医療の提供を行う県内の中核拠点とする。
- 日本のがんセンターの地域モデルとして、広く地域に開かれた医療機関となり関係機関との密接な連携を通じて県民に最良のがん医療を提供するとともに、県民の為に愛知県内のがん医療の均てん化^{*1}と高度化を推進する。

2 病院について

- 都道府県がん診療連携拠点病院として、自らががん医療と予防のフロントランナーとしての役割を果たすとともに、他のがん医療を提供する病院と機能分化・連携を十分に図りながら、県内のがん医療と予防の水準向上をけん引する、最先端のがん医療を提供する。
- がんゲノム医療拠点病院として、がん遺伝子パネル検査の実施から診断、治療に至るまで、病院と研究所の専門家が協力して取り組むことのできる強みを活かしたがんゲノム医療を提供する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院として、他の国公立病院・民間病院では対応できない、がん領域（難治がんや希少がん）に対する診療機能を再検証し、強化・集約化する一方、これらの病院との役割分担に留意しつつ、現行の医療提供の水準維持にとどまらずゲノム医療などの先進的な医療と同時に、緩和ケアや社会復帰を後押しする相談・支援・リハビリテーションなどの機能も充実させ、患者視点に立った医療提供体制ネットワークを構築する。
- 病床規模は、病床稼働率や将来のがん医療需要、特定機能病院としての高度な医療技術の開発・提供、医療人材育成機能の維持・強化、遠隔治療やデータ共有などのスマート化などを踏まえた適切な規模とすることとし、具体的な病床数は今後検討する。

- 日進月歩の医療機器の進歩に適時適切に対応できるよう、将来的な機器の導入に伴うスペースや機能などの変更に対応可能なフレキシビリティのある建物構造・設備配置を検討する。
- AIをはじめとするデジタル技術の導入を通じて、医療従事者の負担軽減や、患者の利便性向上、県内の連携拠点病院等との双方向でリアルタイムな患者情報等の共有体制の構築に取り組み、都道府県の中核拠点として県内のがん医療のモデルとなるスマートホスピタルを目指す。

3 研究所について

- 地方自治体が一般財源で運営する研究所としての観点から、臨床と密接に連携したがん予防や診断・治療につながる最先端の研究を実施する。
- ハイボリュームセンター^{*2}であるがんセンターのみならず、広く県内のがん診療連携拠点病院等から県内のがん医療に係るビッグデータを集積し、高度なデータ分析が行えるデータセンターのような環境を整備し、データ共有・連携体制の下、県内のがん医療の均てん化と高度化を推進する。
- IT・AI 技術などの情報学及び理学・工学・化学系などの異分野との融合から生まれる研究を重点的に進め、がん医療と予防に係るイノベーションの創出に貢献するとともに、新たな世代の研究者の育成を図る。
- 研究は、テーマの選定にあたり広く外部の意見を反映できる仕組みを構築し、患者・市民参画（PPI^{*3}）の観点に留意するとともに、多様性のある外部有識者による評価と助言のもとに推進する。

4 国内外のがんセンターやがん医療機関との連携について

- 名古屋大学等の大学や国立がん研究センター、MD アンダーソンがんセンター等他のがんセンターと広範なパートナーシップ関係を構築し、人材交流や研修派遣等を実施することにより、医療人材の育成に注力する。
- 工学、化学、情報学等の異分野をがんに係る研究開発に取り込んで、破壊的イノベーションを追求する拠点を形成し、スタートアップを含む民間企業との連携を通じて社会実装を目指したメディカルイノベーションエコシステムの形成に寄与する。

5 経営について

- 医療従事者の本来業務への専念を可能とする観点から、民間に委ねることで合理化・効率化につながる業務については、民間活力の活用を図る。
- 限られた資源を最大限活用し、収入増、経費削減に努めるとともに、がんセンターの経営上の独立性を高めることなどにより、経営の一層の効率化を推進する。
- がんセンターの建替えについて、PFI^{※4}手法を導入し発注の効率化を図り、病院部門の運営においてもスマート化、医療のサポート業務、病院経営の支援業務などにPPP^{※4}手法の導入を検討し、経費の節減と収益の向上を図って一層の効率化と透明化のもとに、健全な病院経営を目指す。
- 上記取組の実行に当たっては、必要に応じて抜本的な組織改正も検討する。

6 その他

- 高度な医療を行う総合病院、歯学系大学及び附属病院、県立の精神病院が近隣に集積している現在の場所に新愛知県がんセンターを整備し、各施設の専門性を発揮しながら相互に連携し、広域での患者視点に立った医療提供体制ネットワークを構築する。
- 主要な建物が改築後40年を経過する2030年代初頭までに供用開始できるように2028年度着工を目指して、今後さらに必要な検討を進める。

【用語集】

- ※1 均てん化
どこでもがんの標準的な専門医療を受けられるよう、医療技術等の格差の是正を図ること。
- ※2 ハイボリュームセンター (high volume center)
手術を多く行っている病院のこと。
- ※3 PPI (Patient and Public Involvement)
医学研究・臨床試験プロセスの一環として、研究者が患者・市民の知見を参考にすること。
- ※4 PPP/PFI (Public Private Partnership/Private Finance Initiative)
PPPとは、国や地方公共団体等と民間企業等が連携して公共サービスの提供を行う事業方式のこと。PFIはPPPの手法の一つで、民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して、公共施設等の建設、維持管理、運営等を行う事業手法のこと。